

おきなわSDGs認証制度 説明会配信：第2回認証団体インタビュー（沖縄観光コンベンションビューロー）

インタビュー内容（質問事項一覧）

質問No.	質問分類	質問事項	ご回答
1	団体情報	まず前提として、どのような事業をされているかとSDGsに関する方針を、要約してご教示いただけますと幸いです。	沖縄観光コンベンションビューローでは、「観光を通して県民が幸せを感じることができる社会」を目指し、観光資源の磨き上げと受入環境整備の質の向上を図るとともに、地域への誇りと愛着を醸成する地域経営の視点に立った観光地域づくりの司令塔として、量と質のバランスが取れた持続可能な観光地マネジメントに取り組んでいます。
2	認証された取組内容	「おきなわSDGs認証制度」へ申請し認証された、第3号様式を取組内容について、主要な取組を抜粋してご紹介いただけますと幸いです。	・①「おきなわ観光地域カルテ」の活用促進、②人に環境に配慮した新しい時代の旅のカタチ「エシカルトラベルオキナワ」の促進、③普セナ海中公園周辺における海洋資源保全、④観光関連団体やOCVB賛助会員とのパートナーシップ連携強化、⑤旧海軍司令部壕の戦争遺跡保存の5つの取組を実施しております。 ・代表して①「おきなわ観光地域カルテ」の活用促進について紹介します。まず「おきなわ観光地域カルテ」とは、市町村別の人流データ・イベントデータを分析・可視化した観光マーケティングレポートのこと。今後2年間のKPIとして、おきなわ観光地域カルテWebPV数：26万PV（2024年3月末時点）⇒100万PV、市町村利用利用率：51%（2024年3月末時点）⇒80%の2つを置いており、機能強化や利活用促進のための情報発信などKPI達成に向けて取組中です。この取組を通して、環境に配慮した観光の取組の促進や、地域の稼ぐ力強化につながるようデータの方で支援していきたいと考えています。
3	認証制度への申請に至った経緯	「おきなわSDGs認証制度」へ申請しようと思ったきっかけをご教示ください。 申請を検討する中で、抱えている課題等はいかがでしょうか。	今やSDGsへの取組は企業価値を高める重要な要因の一つとなっていることや、そもそもOCVBは、広域連携DMOとして地域に貢献する組織であること、沖縄県と両輪となって持続可能な観光地を目指して取り組む組織であることから、挑戦しない理由はないとの判断にいたり、チャレンジいたしました。
4	申請書作成で感じたこと	申請書作成の際に感じたこと（例：証書情報の準備に時間を要するため、早めに第2号様式に目を通しておいた方がよい等）や、これから申請する団体へアドバイスしたい点があれば、ご教示ください。	・2号様式は記載するだけでなく根拠資料の提出も必要になります。準備する資料も多いため、窓口となる部署だけでなく組織で横断的に取り組む必要があることから、とりまとめにある程度の時間を要します。早めに着手することを強くおすすめします。 ・作成している時に感じたのが、当たり前としてやっていたことが、ちゃんとSDGsのゴールに繋がっているのだと自分たちで改めて意識できることが、この認証制度にチャレンジする意義のかなと感じましたので、この取組はみんなやっている、ではなく、やっていることはしっかり書くと思いいます。 ・もう少しメ切まで時間あるな、と思わずに早めに取り掛かる！！
5	ヒアリングで感じたこと	事務局からのヒアリングの際に感じたこと（例：取組の詳細について担当者へ都度確認が必要であったため、事前に質問事項への回答を用意しておいた方がよい等）や、これから申請する団体へアドバイスしたい点があれば、ご教示ください。	・事前にある程度の質問事項をいただけたので、取組の担当者にも同席をお願いできたり、資料を準備できたりと、「のちほど確認して回答します」と二度手間にならずに済んだのでありがたかったです。 ・実際のヒアリングでは、記載した取組が、団体として目指す方向にどう繋がっているのかということを説明する必要性を感じました。また、例えば「挑戦的な目標となっている」など、審査のポイントが応募要領に示されているので、しっかり意識することが大事だと思います。一過性の取り組みではなく、継続していくことの大切さ、そのために取り組んでいること、SDGsへの貢献を通じた組織の将来像などをしっかり伝えることが重要です。そうすることで、団体自身の取組の先、目標とするビジョンへの道筋も具体的になっていくと思います。団体としての意識が具体化できることも申請するメリットのひとつだと感じました。せっかくの申請ですので、説明の仕方、伝え方はぜひ意識していただきたいと思います。
6	【沖縄県の外郭団体】申請全体を通して難しかったこと・解決法 【リベンジ申請】2回目申請で工夫した点・ポイント	申請書作成～ヒアリングを通して、沖縄県の外郭団体の目線で、どこに苦勞し、どのように乗り越えたかご教示ください。 また、2回目申請で、1回目申請を踏まえて工夫した点・ポイントがございましたらご教示ください。	私たちは2度目の挑戦で認証を取得することができました。再挑戦では1度目の経験を活かし、予備審査（形式ヒアリング）で事務局からいただいたアドバイスに基づき、本審査（本ヒアリング）に向けて多くの点を改善・整理しました。沖縄県の外郭団体ということで県からの受託事業が多いため、1度目、2度目ともに、目標達成に向けて強い意志を持って取り組んでいても、その活動が受託事業の枠内（つまり受け身の姿勢）と見なされがちだったという印象です。しかし、すべてが受託事業というわけではなく、自主的な取り組みも行っています。そこで、2度目の申請では、これらの自主的な活動を前面に出すようにしました。一方で、当時は組織として目指すべき将来像（ビジョン）や、それに向かう内部の機運がまだ明確でなかったと感じています。そのため、2度目の申請では、注力する取り組みが「2年後にどのような組織でありたいか」というビジョンにどう結びつくのかを意識して記述しました。 審査のポイントである「挑戦的な目標設定」については、その意義は理解できるものの、「何をもって挑戦的とするか」という基準の判断が難しく、実現可能性とのバランスを考慮したKPI（重要業績評価指標）の設定に苦勞しました。また、組織内部で完結する取り組みだけでなく、外部へ好影響を与え（例：SDGsの意識を広める）、社会に貢献する目標設定が求められました。そのため、既存の取り組みをさらに発展させること（例えば「地域カルテ」の取り組みであれば、市町村の観光協会との連携をより深めるなど）を意識し、目標を設定しました。
7	認証されて良かった点	「おきなわSDGs認証制度」に認証されて良かった点をご教示ください。 また、本制度への申請や認証を通じて、会社内で起きた変化についてもご教示ください。	・今年の2月に認証されたばかりということもあり、まだ担当者レベルでは大きな実感（どこか企業さんとながったなど）はないが、社内では、「認証を取得したのだから」としっかり取り組まなければならない、取組に向かう心持が変わったように感じます。 ・本制度の申請を通じて、自分たちのやっていることがどこに繋がるのか、ということ意識してもらえたように思います。
8	メッセージ	最後に、これから「おきなわSDGs認証制度」へ申請することを検討している団体の方へ、メッセージをお願いいたします。	持続可能な社会のために、という考え方がだいぶ身近になったと思います。そんな中で、この制度の一番の意義は、（繰り返しになりますが、）今自分たちのやっていることが、ちゃんとこのSDGsのゴールに繋がっているんだと再認識できることだと思います。そしてそれをより発展させるための方向性を「審査基準」という形で提示してくれているので、形式ヒアリングの際にいただく事務局からのアドバイスも取り入れながら、団体としてのなりたいビジョンをしっかりと詰めて、練り上げていけたら良いのかなと思います。この認証取得がゴールではなく、スタートとして、我々もしっかり取り組んでいけたらと思います。

以上